

Title	出会いからの知識創造：新たな知を拓く若者への期待
Author(s)	敷田, 麻実
Citation	Wildlife Forum, 12(3): 2-2
Issue Date	2007-11-25
Type	Article
Text version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/10119/16988
Rights	Copyright (C) 2007 「野生生物と社会」学会. 敷田麻実, Wildlife Forum, 12(3), 2007, pp.2-2. http://dx.doi.org/10.20798/wildlifeforum.12.3_2
Description	

出会いからの知識創造

新たな知を拓く若者への期待



野生生物保護学会
会長 敷田 麻実
(北海道大学
観光学高等研究センター 教授)

ウェブ2.0の時代、リナックスに代表されるオープンソースの世界で持て囃されている「ノウアスフィア (noosphere)」という言葉がある。それは、まだ誰も手をつけたことがない「知的領域」を示す言葉である。新たな知を創造し拓く者は知的好奇心に満ちており、周囲からは高い賞賛が与えられる。

この「ノウアスフィア効果」は、オープンソースソフトウェアで有名な「リナックス」を生み出す原動力ともなった。それはリーナス・トーバルズという若い専門家に負うところが大きく、その発想がネット上の百科事典ウィキペディアにもつながり、多くが恩恵を得ている。

こうした新たな知の創造機会は、野生生物の保護管理の分野にもあまた存在する。今までの常識にとらわれない、新たな知を拓く者の活躍が野生生物保護管理の世界を充実させるだろう。

9月に青年部会の基礎コースに参加して若い学会員と話す機会を持った。彼らはこれから新たな知を創り出す開拓者としての希望に満ちている。希望を持つ者の強さは、失敗の定義が甘く、少々の失敗も「消化」してゆけるたくましさであろう。成功体験からはもちろん、失敗からでさえ学ぶ、「しぶとい学習能力」を武器に、野生生物保護管理の「新たな知」を拓いてほしい。

では、すでに大成した先輩専門家の役割は何であろうか。それは自分を越える若い専門家を生み出すことにつきる。先輩専門家は後輩を支援、つまり育てる義務がある。失敗者を批判することはたやすい。そこに知的未熟や心得不足があると批判することはさらにたやすい。先輩は「説教者の快樂」にふけることなく、後輩を支援したい。

また若い知の開拓者も、諸先輩のたどった道をなぞるのは最初だけにして、新たな知の地平を大胆に拓いてほしい。

学会はこの両者の出会いの場であり続ける。

「今号のトビウ問答」

Q イノシシは「猪突猛進」なのでしょか。

A 今年は亥年で、勇ましく走るイノシシが描かれた年賀状を頂いた人も多いでしょう。しかし、野生下では、イノシシは滅多に走ることはありません。

イノシシがふつう走るのは人間や犬に追われた時です。雄のイノシシで発達する牙も、後方に沿って曲がっていることから、攻撃には不向きと言えます。

(写真と回答) 仲谷淳氏
独立行政法人中央農業
総合研究センター

